

5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株））

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連	良くなる	商店街（代表者）	・消費者のマインドが向上していることから、景気が良くなる。
		百貨店（経理担当）	・行楽シーズンを迎え、レジャーサービス分野の消費の伸びが見込まれる等、消費の裾野の拡大が期待できる。
(東海)	やや良くなる	商店街（代表者）	・客の購買意欲は、ここ数か月改善している。先行きは販売量も増え、景気が良くなる。
		商店街（代表者）	・鉄道系の売店で売上が微増に転じている。また、前月より法人関係の需要も多少は増えている。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・これから伊勢志摩サミットの話が広がり、実感できる形での観光客増加につながる。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・お盆の売上に期待する。
		一般小売店〔和菓子〕（企画担当）	・アベノミクスの効果が徐々に浸透し、賃金も上昇し、景気が良くなると期待している。
		百貨店（売場主任）	・バーゲン期間中でも、安売りの商品ではなく定価品を目当てに買物に来る客が多い。購買客は増加傾向にあり、安定が見込まれる。
		百貨店（販売促進担当）	・インバウンド関連の売上は、より一層好調に推移すると見込んでいる。
		百貨店（経営企画担当）	・猛暑が続くことが想定され、衣料品の販売回復も目立ってくるものと思われる。高額品も、引き続き売上がけん引すると想定している。
		スーパー（店員）	・天候が良好で客足が鈍るとは考えにくい。大雨があった影響で野菜が値上がりする可能性があり、動向を注視している。
		スーパー（総務担当）	・お中元商品の売上高が、前年より5%ほど増えている。
		コンビニ（エリア担当）	・やや希望的な見方ではあるが、自社のシステム変更や強力なキャンペーン等による商品告知で、売上の改善が期待できる。
		家電量販店（店員）	・白物家電に関して、節電・省エネ機種が人気で、販売単価が上がっている。
		乗用車販売店（経営者）	・10月以降は新型車種の投入もあるので、需要喚起が期待できる。
		乗用車販売店（総務担当）	・新車販売の低迷期間が長いので、そろそろ自律反発する時期と見込んでいる。
		住関連専門店（営業担当）	・持家住宅の受注や受注見込みが増えてきている。また、住宅のリフォーム工事やビル関係の大規模改修も増えている。
		その他専門店〔貴金属〕（営業担当）	・販売単価の上昇や金製品、地金にかなりの動きがあるため、これから先は更に良くなる。
		観光型ホテル（経営者）	・9～10月は、秋の行楽需要でホテルにとって良い時期である。予約数が前年同期より3～5%増加しており、火山活動が活発となっている観光地を敬遠する客の一部が、こちらへ回っているのではないかと考える。
		旅行代理店（経営者）	・特に悪い材料はなく、先行きは良くなると期待したい。
		通信会社（営業担当）	・通信機器の販売量は、今後も現状維持か、更に増加が見込まれる。
		テーマパーク（職員）	・9月の大型連休で、レジャー志向が高まるのを期待している。
		テーマパーク（経営企画担当）	・新規アトラクションの導入効果や9月の大型連休を控え、予約状況が良い。
		その他レジャー〔スポーツレジャー紙〕（広告担当）	・消費税の再増税をしなければ、景気は少しずつ回復基調へ向かう。税率を上げるたびに消費税収は減収してしまう。再増税を延期し景気が回復すれば、税収は増えて一番良い。
		美顔美容室（経営者）	・8月からホームケアセットのキャンペーンが始まる。
その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・障害福祉サービスの利用者数は、増加傾向にある。特に居宅介護と移動支援事業の需要は急速に伸びている。		
設計事務所（経営者）	・案件数は確実に増えているが、小規模案件のため労力は増えている。		
住宅販売会社（従業員）	・ゴールデンウィークに次ぐ集客期間であるお盆休みを控え、期待している。		
変わらない	変わらない	商店街（代表者）	・良くなる要素がまるで見当たらない。コスト上昇によるインフレ傾向であるが、それに伴って所得が上昇する人は、周囲にはいない。これでは景気回復どころか、生活困窮が懸念される。
		商店街（代表者）	・来客数の減少と同時に、客単価も低下してきている。この先、良くなる材料や良い情報がないのが実状である。
		商店街（代表者）	・購入単価は少しずつではあるが上昇している。しかし全体的に購買意欲の高まりは、まだ感じられない。

商店街（代表者）	・寒い時期になれば、販売はまた上向くが、それまでは変わらない。
一般小売店〔結納品〕（経営者）	・これから夏場に入るため、景気はまだ回復せず、横ばいが見込まれる。
一般小売店〔酒類〕（経営者）	・飲食店をはじめ街のにぎわいが、訪日外国人客に支えられている状況で、観光客がいないと消費が落ち込むようでは、しばらくは厳しい状態が続くと感じる。
一般小売店〔土産〕（経営者）	・伊勢志摩サミットが決定したので、期待を込めて現状維持を見込む。しかし、ここ数年、遷宮前からやや行き過ぎではないかと思うくらい観光客が来ていたので、本来の状態に落ち着くまでは、しばらくは波があると思われる。
一般小売店〔薬局〕（経営者）	・都市部の店には客が入り、景気が良さそうに見えるが、景気が良くなっていない地方都市では、今後も上向くとは、とても思えない。
一般小売店〔自然食品〕（経営者）	・暑い日が続くこのまま8月に入ると、販売拡大につながる要素がほとんどない。客の様子からは、秋以降も静観という雰囲気がうかがえる。
一般小売店〔贈答品〕（経営者）	・3か月先を考えても、現状と変わらない。一部の客で売上は支えられているが、大半の客は買物を控えている。ぎりぎりのバランスであるが、中身を分析すると厳しい状況である。
一般小売店〔果物〕（店員）	・3か月ほどでは、現状から変わらない。
百貨店（売場主任）	・秋以降も、購買意欲には変化はみられない。
百貨店（企画担当）	・高額品やインバウンドの売上は伸びているが、中間層の消費者の購買意欲には停滞感がある。この傾向は、ここ数か月続いている。
百貨店（経理担当）	・今月は前年同月を上回るペースであるが、お中元商品については前年割れのため、今後更に良くなるという見通しが立たない。
百貨店（販売担当）	・円安や株価高という、働く人にとって実感のない要因で企業収益が向上し、給与や賞与が上昇しても、いつ反転し厳しい状況に変わるかという不安を持ち続けることになる。政治の停滞で経済政策が後手に回り、その不安を解消するような動きがみえないと、消費者の購買意欲にも大きな影響を及ぼす。
百貨店（販売担当）	・消費が減少傾向の中間層に対して、購買意欲を向上させる要因が見当たらず、当面は現在の状況が続くと思われる。
百貨店（販売担当）	・購買意欲が維持できれば、販売量が大きく低迷することはない。しかし、価格面から高額品主体の動きが長く続くとは思えず、より一層の上昇は難しい。現状の商品の動きからみると、2～3か月後は、低中価格帯の商品が主力になると見込まれる。
スーパー（経営者）	・伊勢志摩サミットが決定したが、当地への来客数の増加には、まだつながらない。
スーパー（店長）	・自店の業績は良い状況で推移しているが、近接する他社の状況はあまり良くない。自店には、節約志向の客が来店しているため、一般家庭の景気は良くないと聞いている。
スーパー（店長）	・株価高や円安・原油安等、消費を促す条件がそろっているように見えるが、大多数の人にとって一番重要なのは、給与・年金等、身近な金の問題である。
スーパー（店長）	・商品の値上げ等が続き、その影響が非常に不透明な状況で、客の財布のひもは固い。どのような商品でも売れるわけではなく、必要な物や目新しい物は売れているが、極端な高額品等については、動きが鈍い。
スーパー（店員）	・消費者は、日々の消費をまず第一に節約し、小売業はその影響を受けている。
スーパー（販売促進担当）	・衣料品、住居関連商品及び食品のいずれも、先行きには大きな伸びが見込めない。
スーパー（支店長）	・景気回復が期待できる対策が見当たらない。また、中国の情勢も気になる。
スーパー（商品開発担当）	・食品の値上げは今後も続くと考えられ、消費は控えられる。食品値上げの動きが収まらなくては、景気は簡単には良くはならない。
コンビニ（企画担当）	・東京オリンピック開催までは、今の状況が続くのではないかと期待する。
コンビニ（エリア担当）	・景気が上向く材料が見当たらない。
コンビニ（エリア担当）	・今月の好調な売上は、当面続く見込みである。

コンビニ（店長）	・客の動きをみていると、特に大きく変わるような要素はない。
コンビニ（商品開発担当）	・生活用品の価格高騰で、消費マインドはプラスにならない。購入はセール品に集中し、販売側は、セール実施のメリットを得られない。中心となる客層で充分な所得の改善が見込めない限り、このままの状況が続く。
衣料品専門店（経営者）	・秋物が出る時期となるので、イベントを実施して客を呼び込む予定である。
衣料品専門店（販売企画担当）	・新商品に反応が出始めてきているが、まだ、先行きは読めない。
衣料品専門店〔紳士服洋品〕（売場担当）	・この業界は、地方の店舗に至るまで好景気を実感できるまでには、一層の時間を要する。
乗用車販売店（経営者）	・やや悪いという状態が長く続いているが、先行きも大きく変わる要因が見当たらない。
乗用車販売店（従業員）	・今月がそれほど大きな落ち込みというわけではなく、流れとしては良くなってきているが、明確に良いという要素もない。一時は購買意欲も上向いてきていたが、今は全体的に落ち着いている。
乗用車販売店（従業員）	・販売増加が見込める要素は特になく、先行きも、現状の販売台数の維持がやっとである。
乗用車販売店（従業員）	・期待する点として、9～10月ごろには新型車種の発売や東京モーターショー等があるが、現時点ではまだ効果はわからない。
乗用車販売店（従業員）	・低調な状況がしばらくは続く。格安整備の他社へ流れていた客が戻りつつあり工場在庫量が増えているのは、やや明るい材料である。
乗用車販売店（従業員）	・益休みを中心として、消費者にも解放感が高まると思われる。気分が変われば、車の話題も増え、新車購入を検討するきっかけになることを期待する。しかし、客の中には、話題として良い話をする人と、悪い話をする人が混在しており、今まで以上に格差が大きくなっていると実感する。
乗用車販売店（販売担当）	・当社初の7人乗りの車種は、非常に人気があるが、今注文しても納車が来年以降となるため、すぐには売上に結び付かない。
乗用車販売店（経理担当）	・地域間で景気回復に格差を感じるため、当地域ではまだまだ景気回復感はない。
その他専門店〔雑貨〕（店員）	・季節的には大きな変化はない。異動についても、特別の動きはないので、それほど変わらない。
高級レストラン（役員）	・8月中旬は予約客・フリー客共に増加する時期であるが、予約に勢いがなく前年並みの推移をしている。
一般レストラン（経営者）	・先行きも、給与が増えることもなく、物価が安値で安定することもない。良くなる要素が見当たらない。
観光型ホテル（販売担当）	・夏の予約は順調に入っているが、秋口の9月以降の予約数が、前年同期比で90%を割っているため、今月と同様に、良いとはいえない状況である。
都市型ホテル（従業員）	・予約数から、先行きも変わらない。
都市型ホテル（支配人）	・8～9月の宿泊予約の動きが鈍い。光熱費の引上げに加えて、清掃費等も値上げの要請がある。人材確保でも、従来は比較的容易であったフロントスタッフすら困難となっている。売上上昇を上回る経費の上昇が続く、見通しは厳しい。
都市型ホテル（経理担当）	・予約の状況は前年同期並みである。
旅行代理店（経営者）	・全体の底上げで景気が良くなっているのではなく、良い会社と悪い会社が極端に分かれているように感じる。
旅行代理店（経営者）	・円安効果での輸出や外国人観光客の増加で辛うじて持ちこたえている企業もある。内需型産業は、原材料の値上げが今後も続き、現状維持が精一杯と思われる。海外情勢の影響も懸念され、先行きの不透明感をぬぐえない。
旅行代理店（経営者）	・プレミアム付商品券が起爆剤になるかと期待したが、ほとんど日用品の購入に充てられているようで、旅行にまでは回らないと実感している。消費税増税で厳しい家計の穴埋めに使われている。したがって、今後も変化が見込めない。
旅行代理店（経営者）	・紅葉シーズンの国内旅行は、早期予約が好調である。海外旅行も年末年始の予約を検討する話もあり、今後に期待している。
旅行代理店（従業員）	・高いコースの客が増えているが、一方で安いツアーの客も増えている。動きが二極化していて、先行きはどちらに向かうのかわからない。

旅行代理店（従業員）	・賞与支給が増加した企業が多いようで、旅行の申込は、しばらく順調に伸びていく状態である。団体旅行も好調で、企業の慰安旅行も増えている。	
タクシー運転手	・これだけ長い間、繁華街で人出の少ない状況をみていると、先行きに対しても期待を持ってない。	
タクシー運転手	・タクシーは、本当に必要とする人は利用するが、無駄と考える人は使わない。これからは、そういう考え方が定着する。	
タクシー運転手	・この先も暑い日が続く予報である。暑い日が続けば今の状況が続くため、先行きも変わらない。	
通信会社（企画担当）	・プレミアム付商品券や地方創生への取組等、明るい兆しはあるものの、地元ではプレミアム付商品券が売れ残る等、あまり良い状況ではない。	
通信会社（サービス担当）	・今後もインターネット回線の申込は増加するが、携帯電話の掛け放題サービスにより、固定電話の解約は一層増えるものと思われる。	
テーマパーク（職員）	・外国からの客が多いだけで、日本人客の少ない状況は変わらない。	
観光名所（案内係）	・この夏は暑い日が続くため、商売繁盛のところと、全く商売にならないところの開きが大きくなる。	
ゴルフ場（企画担当）	・9～10月はゴルフシーズンに入るので、台風等がない限り、ある程度の来客数が見込まれる。景気の変動はあまりない。	
美容室（経営者）	・世の中が明るくなるようなニュースや話題が出てこないで、当分は、客の財布のひもは固いままである。	
その他サービス【介護サービス】（職員）	・介護保険制度改正の影響は、しばらく続くと思定している。	
設計事務所（職員）	・景気や経済は、政治と切り離すことはできない。ギリシャや中国等の海外情勢や日本の現状を合わせみれば、今後の景気が良くなると思える人がいるのか、疑問である。	
住宅販売会社（従業員）	・住宅の販売量は横ばい状態である。	
その他住宅【室内装飾業】（経営者）	・元請の新築受注状況は、芳しくないようである。	
その他住宅【不動産賃貸及び売買】（経営者）	・プレミアム付商品券が頻繁に動き始めているので、少しは景気が良くなるかと期待する。しかし、不動産業界はプレミアム付商品券とはほぼ無関係ないので、業況はさほど変わらない。	
やや悪くなる	スーパー（販売担当）	・暑くも寒くもない季節になるので、売れる物が客によって多種多様になる。商品の値上げが続くなかで、どれだけ多くの客のニーズに合った売場を作れるかが、売上増加のかぎである。それを見極められるかは、不安もある。
コンビニ（店長）	・天候不順で予定通りに入荷せず、販売計画どおりとはならない可能性がある。	
コンビニ（エリア担当）	・前月に比べて今月が多少は上向いたのは天候の要因である。これから景気が良くなるような状況は想像しづらく、更に厳しくなる。	
コンビニ（店長）	・近所に食品を扱うドラッグストアが建設中である。競争相手が更に増え、厳しくなりそうである。	
家電量販店（店員）	・来客数の動きをみていると、この先3か月後に景気が良くなるようには思えない状況である。	
乗用車販売店（従業員）	・政治における無駄遣いや物価上昇が続けば、国民の不安は解消できず、景気は悪くなる。	
乗用車販売店（営業担当）	・新型車種が出ているが、まだ手ごたえは何ともいえない。ハイブリッド車の決定版となる車種が出て、初めて目にみえる回復の動きが出てくるのではないかと考える。年末予定のヒット車種のモデルチェンジまでは、辛抱しなければならない。客もそれまでは、様子見をしている。	
その他専門店【書籍】（店員）	・今年の秋は大型連休があるため、支出がレジャー費に流れ、書店にも多少は影響があると考えられる。	
一般レストラン（従業員）	・足元が年間を通して一番売上の良い時期で、特に今年は過去最高を記録した。今後は、寒くなるにつれて需要が減る。	
スナック（経営者）	・孫の夏休みや連休で客の小遣いは減る。先の予約も少なく、あまり期待できない。	
その他飲食【仕出し】（経営者）	・例年、夏場は売上が減少するが、今月は売上が良かった分、そのしわ寄せがくる。	
通信会社（営業担当）	・現状は思った以上に客の動きが良いが、急な暑さなどの影響や時期的なものであり長くは続かないと思われる。	
パチンコ店（経営者）	・業界全体で、店舗の大型化と集約化が進み、中小店舗は厳しい。	

		理美容室（経営者）	・客との話では、ボーナスもあまり良くなかったので、生活費に充てる金がだんだん減っている。
		美容室（経営者）	・客が高齢化している。車で来られる客はいいが、歩きの客は、暑い日が続くと来店しなくなる。
		設計事務所（職員）	・景気対策以前に、消費税増税の話が出てくるので、政策的には、あまり景気が良くなることは望めない。
		住宅販売会社（経営者）	・消費者は、住宅の購入を考えられるほどには、所得が上がっていない。先行きもわからない状況である。
		住宅販売会社（従業員）	・工事の受注残が減り、新規の受注見込みも少ないため、先行きは困難になるように思われる。
		その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	・売上は確保できても、人件費や材料費等の経費が上がって、どの仕事でも利益が残らない。このような状況がまだ続く。
	悪くなる	一般小売店〔電気屋〕（経営者）	・販売量が変わらず、販売単価が下がっている状況では、今よりも良くなるらない。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	・海外の株式市場でバブルがはじけたら、消費マインドは低下する。
		都市型ホテル（経営者）	・インバウンドによる良好な予約が、いつまで続くかわからない。
		美容室（経営者）	・この先は消費税が再増税となるので、もっと悪くなる。
企業動向関連 (東海)	良くなる やや良くなる	-	-
		パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）	・秋に向けて、果実品や農産品等の関連製品の受注・販売が増え、今よりも業績は良くなる。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・現時点ではまだ企画段階の設備投資が、2～3か月後には実施されている。
		輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	・下半期は、受注台数の増加が見込まれている。
		輸送業（エリア担当）	・荷物の動きは順調に増加している。増加量が大幅すぎない分、経費を増加させずに対応できている。
		通信会社（法人営業担当）	・ギリシャ財政問題も、当面は落ち着き、米国経済に引っ張られながら、消費税再増税までに着実な景気回復を期待する。
		金融業（従業員）	・建築業や備品・部品等の製造流通に関連する企業からは、景気は良くなるという声を比較的多く聞く。
		行政書士	・受注量の増加が見込まれる。
		会計事務所（社会保険労務士）	・6～7月に支払われた夏季賞与をみると、前年よりも増額している客が多い。
		その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	・原油価格は1パーレル当たり50ドル台で定着しそうで、これならば、日本が国際競争力を持てる。ただし、世界情勢はいつ大きく変動するかわからないため、企業としては、開発を続け体質強化をする必要がある。
	変わらない	食料品製造業（営業担当）	・取引先で大きい変動もほとんどなく、現状の良くも悪くもなく状況が、このまま横ばいで続くのではないかと思われる。
		食料品製造業（経営企画担当）	・前年を上回る夏季賞与が支給されても、消費は思ったようには伸びない。海外からの旅行者の一過性の需要に頼っているようでは、先々不安を感じる。
		化学工業（総務秘書）	・特段の良くなる要素も、悪くなる要素も見当たらない。
		窯業・土石製品製造業（社員）	・全体的に受注量が減っている。先々急激に落ち込みそうな兆候はないが、回復の兆しもみられない。
		鉄鋼業（経営者）	・海外からの格安なスクラップの流入や国内物件の減少を打開できる要因が、先行きにもみられない。
		金属製品製造業（経営者）	・引き合い件数も減少しており、引き続き悪い状況のままであると考える。
		金属製品製造業（従業員）	・工場の稼働状況は悪くないと思われるが、受注情勢はあまり良くないため受注価格が上がらない点が、気掛かりである。
		一般機械器具製造業（営業担当）	・スマートフォン向けの設備投資には勢いがいないが、産業機器向けの設備投資需要は底堅く、為替相場も円安なので、引き続き利益の確保が見込める。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・受注量の水準が変わらない。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・目先の好材料も悪い材料もない状態にある。業績には各企業の努力の結果が表れると感じる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・トランス関係の製品は、国内向けでは相変わらず受注時に価格交渉が実施されるが、輸出向けとみられる案件は、引き続き好調である。国内需要だけをみると悪くなる可能性もあるが、当社全体でみた場合は、バランスがとれており、先行きも横ばいが続く。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・リストラのようなネガティブな対応以外に、悪い環境を脱却できる方法が見当たらない。

輸送用機械器具製造業 (経理担当)	・出荷量の変動や値引きに合理化の要請といった大きな変化がないため、為替の恩恵もあり、しばらくは安定した利益を確保できると考えられる。
輸送用機械器具製造業 (総務経理担当)	・大手自動車会社の国内増産と、中国経済が下降に向かうことを合わせみると、今の状況が先行きも続くのではないかと考える。
建設業(経営者)	・零細企業にとっては、これから先に良くなる材料が全くない。政治の状況から、国民には不安感が広がり、新しく何かを始めようという気が起きない。
建設業(営業担当)	・大手企業の景気が上向いているからといって、当地域の景気が回復していくわけではない。取引先や同僚等からも、ムードが明るくなるような良い話は聞かない。
輸送業(経営者)	・人手不足による人件費や人材募集費の高止まりも影響し、国内向け、輸出入共に物量には大きな変化がないと思われる。
輸送業(従業員)	・天候によって購買意欲は大きく変わり、その影響で荷動きも大きく左右される。トラックの燃料となる軽油価格が安定し、経営にも寄与している。一方で、運転手は採用難で、これまで以上に採用経費をかけて募集活動を行っている。先行きには、依然として明るい兆しがみえないように思われる。
輸送業(エリア担当)	・円安基調は安定しているが、中国や米国の景況が不安定なため、堅実なムードでの取引が続く。
輸送業(エリア担当)	・軽油の価格が、1リットル当たり前年比で26.7銭安くなっており、大変助かっているが、荷動きは、今一つ緩慢な動きが続いている。
輸送業(エリア担当)	・これから景気が良くなる理由、要因が見当たらない。経済をけん引するような出来事が見当たらないことが、先行きを見通しづらい要因となっている。
金融業(法人営業担当)	・5月には実質賃金が前年同月比で横ばいとなったこともあり、現役世代の消費は回復傾向にあるが、高齢者は、実質支給額の減少で節約意識が高まりつつある。
金融業(企画担当)	・資産を持つ層以外の消費が増えてこない、これ以上は景気が上向かない。
不動産業(経営者)	・実体経済の動きは活発でなく、先行きも変化はみられない。
不動産業(用地仕入)	・今後、景気に影響を与えるような材料が見当たらない。
広告代理店(制作担当)	・客からはこれといった引き合い話もなく、あまり先の見通しは具体的にみえず、横ばいが続きそうである。
新聞販売店[広告] (店主)	・特に悪い材料もなければ、良い材料もない。
公認会計士	・円安による原材料や電力料金の上昇が、中小企業の収益性悪化の要因となっている。円安によるコスト増加を電力料金に転嫁することは理解できるが、電力会社の経営改善が進んでいるかについては、疑問を感じる。
会計事務所(職員)	・ギリシャの財政問題、中国株式市場の情勢や新国立競技場の建設問題等、先行き不透明なことが多いが、現状のままであれば、景気にも大きな変化はないと思われる。
その他サービス業[ソフト開発](社員)	・本年度の案件も出尽くした感があり、下期に向けて急激な案件増加は発生しないと思われる。
やや悪くなる	
出版・印刷・同関連産業(代表)	・価格競争が一段と厳しくなっており、粗利率は少しずつ低下する等、現段階ではプラス材料がほとんどない。
印刷業(営業担当)	・良い話も景気が良くなる兆しもなく、むしろ悪くなる一方である。
化学工業(営業)	・ナフサ価格が下がったことにより、販売先より値下げ要請がある。収益・販売額の減少につながる。
化学工業(人事担当)	・海外情勢では、景気にとってプラスなのは、原油価格が安いことと為替レートが円安で安定していることである。今後のリスク要因としては、中国情勢、米国の利上げ、国際的なテロの問題等で、ギリシャの財政問題も完全に解決したわけではない。
電気機械器具製造業 (営業担当)	・売上がやや減少傾向にある。
電気機械器具製造業 (経営者)	・取引先の設備投資が一段落し、減少の方向に向かうため、3か月先にはあまり期待が持てない。
建設業(経営者)	・建設業でも業種によっては、仕事が潤沢にあり好景気が続いている。業種間でのバラつきが、極端である。
悪くなる	
雇用 関連	
良くなる	-
やや良くなる	アウトソーシング企業 (エリア担当)
	・9月以降、新型車種の生産や海外向けの生産増加が見込まれるため、やや良くなる。

(東海)	職業安定所（職員）	・プレミアム付商品券の発行や猛暑による個人消費の回復で、雇用の幅も広がりそうである。ただし、建設作業員や介護職等では、人手不足が厳しくなりそうである。
	職業安定所（職員）	・2倍を超える求人倍率となるのは、保安職、建設職種、サービス職、輸送・機械運転職種、専門・技術職等で、これらの職種を中心に、引き続き人材確保への企業の意欲は続くと思われる。
	民間職業紹介機関（営業担当）	・これから大手企業での新卒者の採用面接も進み、ある程度、内定を辞退される企業も出てくるのが想定され、第2新卒者の採用が進む可能性がある。
	民間職業紹介機関（営業担当）	・自動車業界が活況で、当地域の製造業では引き続き景気の回復が期待される。また、イベント出展希望企業も増加している様子である。
	学校〔専門学校〕（就職担当）	・就職活動の日程変更に伴う学生の負担や混乱も現時点ではなく、影響は少ないとみられる。前年同様に売手市場といった印象である。
変わらない	人材派遣会社（経営企画）	・先行きも特に変化の兆しはない。
	人材派遣会社（社員）	・国会での労働者派遣法改正案の動向が不透明である。
	人材派遣会社（社員）	・有能な人材を求める企業の求人活動は活発化しているが、それに見合う人材の不足が、引き続き深刻である。
	人材派遣会社（社員）	・来月にイベントを控えているが、予約状況は好調である。あまり大きくは変わらないが、年末に向けては良くなる見込みである。
	人材派遣会社（営業担当）	・ポジティブな材料が見当たらず、大きな変化が期待できない。
	人材派遣会社（営業担当）	・労働者派遣法に改正の動きがあり、状況次第では、派遣スタッフ活用について様子見となる企業が出るのではないかとと思われる。
	人材派遣会社（営業担当）	・現時点で客からは、中長期の先行きを見越した引き合いがある。また、この先も景気後退を示す要素は見当たらない。
	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・求人関連では、一部のメーカーが増産に備えて、手当等の支給で人手確保に積極的に動いているが、そのような動きは限定的である。大手企業の採用活動が8月から本格化するが、中小企業はそれを受けて採用活動を仕切り直す必要もある。全体としては、景気が現状のまま停滞する可能性が大きい。
	職業安定所（所長）	・景況感の回復は今が天井である。各企業とも先行きは横ばいであるとみているため、今後はその通りに推移するであろう。
	職業安定所（職員）	・求職者の減少により、求人企業では人員確保が十分に進まず、業務増加にも即時対応が困難で、収益拡大につながりにくい。また、円安の長期化が収益を圧迫している面もあり、プラスマイナスが相殺される状況が、しばらく続くと考えられる。
	職業安定所（職員）	・大手を中心にベースアップも実施されているが、当地は中小企業が多く、引き続き厳しい状態である。プラス要因は、国内では生産設備の投資の動きが一部に出てきている。好調な会社の中には、仕事をもらうのではなく獲得に行く事業所もあり、大変忙しい状況にある。マイナス要因は、大企業は好調だが、下請である中小企業では、仕事が減っているところもあり、円安に伴う材料費の上昇等、厳しい面もある。一部の製造業では、親会社から仕事がもらえず、廃止に追い込まれる事業所も出てきている。また、求人は増加傾向にあるものの、正社員よりもパートでの求人募集が目立つ傾向である。
	職業安定所（職員）	・求人数は前年同期比で減少しているが、派遣・請負求人の減少に起因するもので、求人数は実態としては横ばいに近い。
	職業安定所（職員）	・求人数は増加しているものの、人手不足が恒常化している建設業、医療・福祉業に加えて、卸・小売業でも今後の充足率は、横ばいで推移すると思われる。
	民間職業紹介機関（支社長）	・景気は悪化するわけではないが、特に回復の兆しも感じない。
その他雇用〔広告代理店〕（求人広告担当）	・ここ半年ほど、状況に変化があまりないので、今後も同様と考えている。	
やや悪くなる	人材派遣会社（支店長）	・求人数は引き続き高水準で推移していることもあり、求職者の不足感が強まっている。募集コストの増加と競合の激化もあり、今後は、成約状況がやや悪化すると見込まれる。
悪くなる	-	-